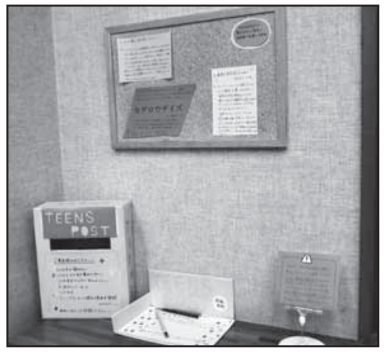
読みたい本やオススメしたい本などはTEENS POSTへ投稿できます



担当がオススメ本の魅力を語るポップは必見

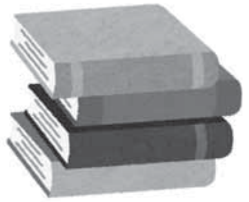
Teens Room へようこそ！

中央図書館には、１階カウンターに向かって左手側の小部屋に「ティーンズルーム」があります。ここには、図書館から足が遠のいてしまいがちな中高生のために、魅力的な本が集められています。本の選定は全て、司書が読んだ上で行っています。また、ジャンル分けも「男力」、「女力」、「笑」、「ドキッ」などなど、名前だけで興味を持ってもらえるよう考えられています。タイトルが面白い本も多く、ただ棚を眺めているだけでも、気になる本や手に取ってみたい本がきっと出てくると思います。

担当者は、情報誌『めがろぱ』の発行時や寄せられたご意見への返答時など、「常にティーンズ目線で考え、彼らの心に寄り添えるように」と心がけているそうです。「勉強の息抜きがしたくなったら、友人関係で悩んだら、クスッとしたくなったら、……そんな時はティーンズルームをのぞいてみてほしいです。フラッと来るだけで、何か発見や楽しみが見つかるかも……！」と熱く語ってくれました。

進路、職業など真面目な本から、雑学、趣味など気軽な本まで、人生のヒントになるような本が沢山あります。ぜひ一度足を運んでみてください。

向山から こ・ん・に・ち・は！ 向山図書館だより



みなさんは読んだ本の記録をつけていますか？　図書館の本は一期一会、返したらそれっきりかもしれません。読んで感動を得た本は記録しておくことをおすすめします。見返すと当時を思い出せるし、自分の好みもよくわかりますよ。

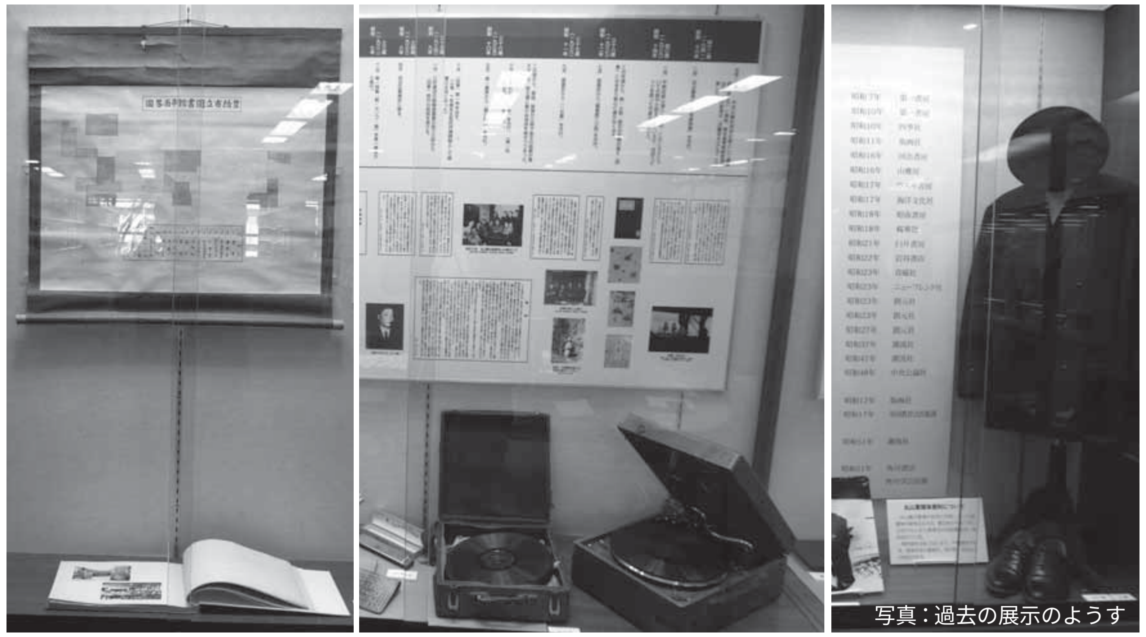
パソコンやスマートフォンで管理したり、手書きでノートにつづったり、自分に合うやり方を試してみてください。

日々の記録がめんどうな方は、本を借りたときに渡される「ご利用明細」をご活用ください。空気や光に当てないよう保管すれば結構長持ちします。

残暑も年々厳しくなっています。暑さを忘れるほどおもしろい本を探しにいらしてください。

図書館の今を伝える情報紙
No. 101
LIBRARY NEWS

豊橋市図書館だより
第101号　平成27年8月1日
＜編集・発行＞
豊橋市中央図書館
〒441-8025 豊橋市羽根井町 48 TEL:(0532)31-3131
豊橋市向山図書館
〒440-0862 豊橋市向山大池町 20-1 TEL:(0532)62-2944
豊橋市大清水図書館
〒441-8133 豊橋市大清水町彦坂 10-7 TEL:(0532)39-5900
豊橋市図書館ホームページ
http://www.library.toyohashi.aichi.jp/
メールアドレス:tosho@library.toyohashi.aichi.jp



写真：過去の展示のようす

図書館資料展

中央図書館２階の展示コーナーでは、さまざまな資料展を開催しています。

その特色は、本だけでなく、収蔵する資料やお借りした資料をともに展示する、図書館と博物館を掛け合わせたような展示にあります。

収蔵している品々は、豊橋の歴史を語る資料や、豊橋と深い関係のある人物の遺品など・・・これまで100年以上の年月をこの町とあゆみ続けた、豊橋市図書館の魅力の１つそのものなのかもしれません。

目 次

P.2 【予告】平成27年度 図書館資料展
　ミナクル大清水図書館です 大清水図書館だより
P.3 【特別連載】図書館100周年記念誌番外編④
P.4 Teens Room へようこそ！
　向山からこ・ん・に・ち・は！向山図書館だより

公式ブログ＆Twitter 好評配信中！

■豊橋市図書館日記～Library Diary～
http://ameblo.jp/toyohashi-city-library/

■Twitter 公式アカウント
https://twitter.com/tosho07288312

予告 **図書館資料展**

【共通】
会場：中央図書館 ２階 展示コーナー
入場無料

中央図書館では、８月～来年１月にかけて３つの図書館資料展を開催します。

はばたく街・豊橋 ～戦災復興から高度経済成長へ～

平成27年8月29日（土）～10月4日（日）

一昨年の「失われた街・豊橋」、昨年の「よみがえる街・豊橋」の続編で、戦災からの復興を経て、高度経済成長期に発展した豊橋の街のようすを写真パネルで紹介する展示会です。

村井弦斎と食道楽展 平成27年11月1日（日）～11月29日（日）

『食道楽』の作者、村井弦斎は幕末の豊橋に生まれました。村井家伝来の当館所蔵資料とともに、弦斎の生い立ちと『食道楽』について紹介します。

昭和・平成のおもちゃ展 平成27年12月5日（土）～平成28年1月31日（日）

昭和から平成にかけての懐かしいおもちゃを展示。人々の暮らしのなかで、おもちゃがどのように変遷していったのかを紹介します。

※上記の内容は変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

ミナクル大清水図書館です
大清水図書館だより

ミナクル赤ちゃん

４月のオープン以来、初めての夏を迎え、試行錯誤を重ねている大清水図書館です。

今日はそんな新しい試みのひとつ「ミナクル赤ちゃん」を紹介します。

毎月第３水曜日午前 10 時半と 11 時からの２回、プレイルームで１歳半くらいまでの赤ちゃんと保護者の方を対象としたおはなし会を開いています。絵本の読み聞かせや、わらべうた、手遊びなどをします。20 分くらいですが、赤ちゃんとゆっくりふれあう時間を持ちましょう。

ボランティアさんも交え、スタッフ一同しっかり練習してお待ちしています。ぜひ、お越しください。

★赤ちゃんも貸出券を作ることができます！
（保険証など身分証明書が必要）

特別連載

図書館 100 周年記念誌番外編 ④

中村　光雄（元豊橋市図書館長・図書館 100 周年記念誌編集委員会委員）

豊橋市図書館 100 周年記念誌の刊行を記念した特別連載です。昭和 20 ～ 30 年代、戦後復興へと進む中で、読書は特別な人や学生のものと思われていました。豊橋市図書館は、読書普及活動を推し進めていました。

次も読書普及～読むことが暮らしを変える～

読書普及の先にあるものは、読書によって学習し、学習から暮らしを変えてゆくこと（自己教育・社会教育）を目標とした、奉仕活動を続けて展開していくことであった。

自動車文庫※1開設を境として、それ以前の主な読書普及活動を項目のみ羅列すると、

○成人貸出文庫の拡大と充実（1953 年以降）
○読書会※2への支援…読み仲間を増やす。リーダーを育てるため運営方法学習会と手引書作成（２回）、運営研究会（1958 年以降）、読書会合同集会（1966～1975 年）、読書会交流会（1956 年以降）など
○婦人会・青年団と読書運動推進懇談会（1960年、これが自動車文庫寄贈運動に発展した）
○利用者懇談会（1961 年以降何回も）
○子とともに本を読むお母さん運動（1963 年に花田、1964年に賀茂校区で実施）

こうした奉仕活動を進めるとき、他県の図書館の活動が参考、あるいは刺激となった。例えば、千葉県の移動図書館、長野県のＰＴＡ母親文庫、鹿児島県の 20 分間読書運動であった。

読書運動が自動車文庫を生んだ

こうした運動を進める中で、一般市民、とりわけ主婦層にとって、距離的・時間的に図書館が利用しにくいことが問題とされ、特に団体で利用する本をまとめて運搬する方法が大きな壁になりかねなかった。

以前から、成人用の巡回文庫を運ぶため、社会教育課の巡回映画会で機材を運ぶライトバンの協力を得て、図書館から遠い地区に限って本を届けていた。しかし、読書運動が拡がってくると、社会教育課の協力だけでは間に合わなくなり、図書館として市当局に自動車文庫の設置を要求していたが、実現には至らずにいた。

昭和 35（1960）年、青年団と婦人会との懇談会を機に、婦人会連絡協議会（会長・林園子氏）が立ち上げたのが自動車文庫寄贈運動だった。婦人会が市民から寄附金を募り、１年たたないうちに自動車文庫１台が寄贈された。

豊橋浜松読書交歓会

自動車文庫の活動が生んだ最大の行事が「豊橋浜松読書交歓会」だった。県境を越えた２つの図書館の利用者を結んだこの会は、年に１回開催の行事とはいえ、全国的にも珍しく、台風等で３回中止があったものの 43 年間という半世紀に近い間続いたことは奇跡に近い。一体その理由はどこにあったのか･･･最大の理由は参加者の継続への熱意であるが、主たる対象を主婦層にしぼり、開催時期を毎年子供たちの夏休みの前とした事、つまり参加しやすい日時にしたことにある。ちょうど７月、七夕のように逢うのは一度と参加者から愛情をこめて待たれた集会であった。

当時浜松の図書館協議会のメンバーであった作家・藤枝静男氏も参加され、新潮社の雑誌『波』にこの集会のことを書いている。（藤枝氏の代表作は『欣求浄土』、広辞苑に載るほどの作家であった）。

交歓会で話し合われた内容は、当初は読書会運営上のことが多かったが、数回後からは、その回限りの読書会とした。あらかじめテキストを決めておき、それを読んで参加する。十数人ずつの小グループに分かれてテキストについて話し合った。決めた本によって話の盛り上がりの度合いはさまざまであった。

この交歓会を側面から大きく支えた行事が豊橋にあった。市民を対象とした読書感想文コンクールであった。コンクールは読書運動のひとつとして、自動車文庫開設の１年前から実施していたが、その後も 40 年以上続いた行事であり、婦人層の読む力を伸ばしたことで評価される行事であった。テキストを読む力をつけた参加者が増すことで話が一層深まったのである。

※１　自動車文庫…図書館サービスが行き届かない地域へ本や雑誌などを積んだ自動車で定期的に出向き、貸出などを行うもの。移動図書館、ブックモビルともいう。

※２　読書会…何人かのグループで、同じ本または同じテーマの本を読み、感想などを述べ合う会合。

【次回】メシの種・仕事に役立つ図書館。奉仕を支える館内体制と図書整理の合理化。